

# 令和7年度 第4回豊田市市民活動促進委員会 次第

日時 令和8年1月28日(水)

午後7時から午後8時30分まで

場所 とよた市民活動センター

1 開会

2 答申案について  
別紙参照

3 【議題】スローガンに続くストーリー、重点プロジェクト再考

4 閉会  
来年度に向けて一言

## 第10期(令和7～8年度)市民活動促進委員会名簿

区分	氏名	団体名等	分野
継続	たにくち いさお 谷口 功	椋山女学園大学教授	学識経験者
継続	みしま ちとせ 三島 知斗世	NPO法人 ボランティアネイバーズ	学識経験者
継続	いとう きよえ 伊東 浄江	NPO法人 トルシーダ	市民活動団体
継続	うが みやこ 有我 都	キッズプランナー	市民活動団体
継続	あきやま せい 秋山 聖	とよたMケアの会	市民活動団体
継続	おにき りえ 鬼木 利瑛	株式会社 eight	企業
継続	はせがわ かずや 長谷川 和哉	トヨタ紡織(株) 総務部 ウェルビーイング推進室 企 画G	企業
継続	つづき あきら 都築 朗	(社福)豊田市社会福祉協議 会	中間支援
継続	とだ ゆうすけ 戸田 友介	(一社)おいでん・さんそん	中間支援
新規	すずき ゆたか 鈴木 友喬	任意団体あいす	市民活動団体
新規	すずむら もえみ 鈴木 萌芽	(株)musbun	企業
新規	いわた まさこ 岩田 雅子	(公財)豊田市文化振興財団 交流館課	中間支援
新規	かめい さちこ 亀井 祥子	NPO 法人こえもじ	公募 (市民活動団体)

※敬称略

### 3 【議題1】スローガンに続くストーリー、重点プロジェクト再考

#### (1) スローガンに続くストーリーについて

皆様から頂いた意見につきまして、再構成した案になりますので意見ををお願いします。

すべての始まりは、あなたの心の中にあります。

まずは、あなたの心が「ウキウキ」「ワクワク」することから始めましょう。

自分とは違う「誰か」と出会い、想いが響き合うとき、それは「共振」という大きなエネルギーに変わります。

お互いの「違い」を認め合い、共に踏み出す一歩。

その小さな熱量が、やがてまちの未来を動かす大きなうねりになります。

校正して頂くに当たって重視していただきたい視点

- (1) スローガンに続くメッセージとして繋がりがあがるか？
- (2) 市民（現在市民活動に携わる人もこれから興味関心を持って行動するかもしれない人も含めた全て）の方に寄り添うものであるか？

#### (2) 重点プロジェクトについて

改めて、スローガン、ストーリーに続く、プロジェクト名に対する意見ををお願いします。

【個人に焦点】○○プロジェクト（案 やってみたい応援、はじめの一歩）

「好き」や「やってみたい」から一歩踏み出す行動を応援し、新しい自分や仲間を見つけるお手伝いをします。

【組織に焦点】○○プロジェクト（案 タスケテをつなげる、おたがいさまでつながる）

課題を抱えた市民や団体と解決できる資源を持った団体等をコーディネートし、助け合う社会をつくります。

【社会に焦点】○○プロジェクト（案 共振拡大、まちの未来を動かす）

多様な活動が共有、共感される場をつくり、コラボや発信、新たな活動が生まれる環境づくりをめざします

令和8年2月4日

豊田市長 太田稔彦 様

豊田市市民活動促進委員会  
会長 鬼木 利瑛

次期豊田市市民活動の促進に関する計画について（答申）

令和7年6月25日付け豊地交発第685号で諮問を受けましたこのことについて、下記のとおり答申します。

記

1 答申の内容

豊田市では、市民活動の促進を図り、共働によるまちづくりを推進するための具体的な実施計画として「豊田市市民活動促進計画」を策定し、これまで第1期計画から第4期計画まで18年にわたり、本計画に基づいた事業を展開してきました。

今年度、豊田市長からの諮問を受け、本委員会として、本市におけるこれまでの市民活動の展開の変化や今後の市民活動の展望を踏まえ、本計画の在り方やこれまでより一歩進めた市民活動促進の在り方などについて、慎重に審議してまいりました。

その結果、本計画の在り方としては、行政が主体となり、かつ、事業の進捗管理が主となる「豊田市市民活動促進計画」の策定から、縛りを緩め、より柔軟に市民活動を後押しする基軸となる考え方のみを定めた「豊田市市民活動促進指針」の策定へ転換することが望ましいという結論を得て、本委員会で「豊田市市民活動促進指針（案）」として取りまとめましたので、別添のとおり答申します。

豊田市長におかれましては、この答申及び審議過程で各委員から出された意見を十分に踏まえ、「豊田市市民活動促進指針」を策定し、合わせて以下に記載の意見の内容についても検討いただくことを要望します。

2 「豊田市市民活動促進計画」から「豊田市市民活動促進指針」への転換の理由

(1) 本市における市民活動の成熟性

平成21年から令和7年度までの「豊田市市民活動促進計画」に基づく取組の結果、市民活動団体数や参加者数等の「数」「量」等が拡大している。

(2) 本市における新たな中間支援の動き

行政の団体支援や市民活動センターの運営を通じて、市民活動を支援する中間支援組織が育ち、行政以外にも市民活動のコーディネートや事業支援を行う動きが顕在化している。

(3) 地域を取り巻く状況の変化

地域を取り巻く環境は多様化・複雑化しており、多様な主体が繋がり、課題解決に取り組むことが必須となっている。

3 「豊田市市民活動促進指針」の策定と合わせて検討すべき事項（意見）

「豊田市市民活動促進指針」への転換にあたって、多様な主体が市民活動促進の取組の検討に主体的に関わることができるよう、柔軟な体制を構築するとともに、取組の実施においても多様な主体が関与できるよう検討することを要望します。

別添 (1) 豊田市市民活動促進指針（案）

(2) 令和7年度豊田市市民活動促進委員会 議事概要

## スローガン

私の楽しいから始まる  
人とつながる  
まちの未来が動く

## ストーリー

すべての始まりは、あなたの心の中にあります。

まずは、あなたの心が動く、「モヤモヤ」や「ワクワク」から始めましょう。

自分とは違う「誰か」と出会い、想いが響き合うとき、それは「共振」という大きなエネルギーに変わります。

お互いの「違い」を認め合い、相手の立場から考え、共に踏み出す一歩。

その小さな熱量が合わさって、やがてまちの未来を動かす大きなうねりとなります。

### 豊田市市民活動指針に込めた思い

この指針が目指すのは整ったルールブックを作るのではなく、市民一人ひとりの心に火を灯し、それぞれのナラティブ（物語）を紡ぎ出すきっかけを創ることです。

既存の「市民活動」という枠組みや「課題解決」という言葉が持つ敷居の高さや義務感を捨て、誰の心にも届く体温のある言葉を選びました。すべての起点は「私」の心が動くことであり、そこには純粋な楽しさだけでなく、放っておけないというざわざわした違和感やモヤモヤといった切実な感情も含まれます。自分の魂が喜ぶことを追求する小さな熱量が周囲と共振し、やがて社会を変える大きなうねりとなります。

私たちは行政と市民、支援する側とされる側の境界線を溶かし、同じ未来を見るパートナーとしての関係を再構築します。完璧さを求めず、お互いに「助けて」と言い合える信頼関係と、違いを活かし合う寛容さ。

この指針は、温かな土壌の上で市民一人ひとりが主人公となり、豊田市の新しい景色を描いていくための羅針盤です。

## 〈補足〉豊田市市民活動促進指針について（解説）

### 1 統治（ガバナンス）の転換～行政主導の計画から共働の指針へ～

本市は平成21年に策定した「第1期市民活動促進計画」から、第4期計画（令和4年4月～令和8年3月）まで18年にわたり、団体数や参加者数といった「数・量」の拡大に注力してきました。その間に、市民活動は一部の情熱と専門知識を持った団体の活動から、好きなことを広げる活動、地域の課題を解決する活動などに裾野を広げ、行政以外にも市民活動を支援する団体や企業など、市民活動を支援する多様な主体が増えてきました。

今回の転換は、豊田市の市民活動が行政の取り組める範疇を超える兆しが見えていることを背景として、行政が目標を定めて管理する「計画（Plan）」から、多様な主体が自律的に動くための「指針（Guideline）」へと、次の段階に移行する大きな決断です。これにより、以下の大きな変化が見込まれます。

#### （1）柔軟性の確保

社会情勢の変化に合わせ、環境や団体の主体性に応じてしなやかに取組や事業を変化させられる道しるべとして指針を位置付けています。

#### （2）「共働」の深化

単なる役割分担を超え、行政と市民が互いの強みと弱みを認め合い、対等なパートナーとして同じ未来を見る関係性を再構築します。

#### （3）市民活動の促進に多様な主体が関わる機会の創出

促進委員会の位置付けも含め、多様な主体が市民活動の促進を考え、関わられる仕組みを構築します。

#### （4）評価の再定義

実績への○×の判断ではなく、次に繋がる事業を共有し応援する未来志向の対話を重視します。また、一人ひとりが自らの活動を自分の言葉で物語るナラティブ（語り）の視点を評価に取り入れます。

### 2 駆動力の再定義～個人の「楽しい」を社会のエネルギーに変える～

ここでのストーリーは、行政施策の起点を社会貢献や義務感といった外発的動機から、個人の内発的な感情へシフトさせることを意味します。

#### （1）私の楽しいや違和感から始まる原動力

個人の心の中にあるワクワクする熱量だけでなく、何かほっとけないというざわざわした気持ちやモヤモヤした思いも、社会を変える大きなエネルギーの起点となります。

#### （2）量の拡大から質の共鳴へ

17年間の支援で育った中間支援組織やコーディネート機能を活かし、個人の熱量を「共振」という大きなエネルギーへと繋げていく段階にステップアップします。

#### （3）行政の役割とハブ機能

行政は単なる整備者ではなく、多様な主体の活動が共有・共感され、新たな活動が生まれる拠点（ハブ）として機能します。

#### (4) 課題解決という言葉からの解放

地域課題の解決という言葉が活動の負担やハードルにならないよう、まずは自分自身の意思を前面に出せる環境を整えます。SDGsなどの目標を達成しなければならないという義務感による疲れを取り除き、活動そのものを楽しむ文化を大切にします。

### 3 文化の再構築～心理的障壁を取り除き「境界線」を溶かす～

この指針は、これまでの行政計画の型に当てはめるものではなく、市民一人ひとりの心に火を灯し、行動を促すきっかけを紡ぐことを目的としています。

#### (1) 言葉の体温

行政的な硬い言葉を捨て、誰の心にも届く体温のある言葉を選ぶことで、活動への敷居の高さや参加への躊躇を払拭します。

#### (2) 自分を縛る限界意識の解消

自分にはできない、あるいは無理といった自分自身の可能性を狭める思い込みを心理的な壁と捉えます。それを乗り越え、誰もが主体的に動き出せるよう応援します。

#### (3) 境界線の消失

行政と市民、支援する側とされる側といった従来の境界線を溶かし、全員を同じ未来を見るパートナーとして捉え直します。

#### (4) 助け合える信頼関係

完璧さを求めず、お互いに助けると言い合える寛容さと、違いを活かし合う温かな土壌を豊田市の新しい景色として描きます。

### 4 スローガンとストーリーの手法を選択した理由

今回の指針において、あえて物語の形式をとった背景と、数値目標との向き合い方について説明します。

#### (1) 数値の先にある共感の創出

これまでの17年間は団体数や参加者数といった数や量の拡大に注力してきました。今後も全体像を把握する指標として数値を用いることはありますが、数字を管理するだけの計画では市民一人ひとりが自分事として捉えにくくなる課題もありました。ストーリーという手法を用いることで、数値だけでは表せない個人の想いに光を当て、自発的な行動を促す共感の連鎖を狙っています。

#### (2) 多様な主体を繋ぐ共通言語

市民、企業、学生など、立場が異なる人々が同じ方向を向くためには、専門用語ではない体温のある言葉が必要です。スローガンやストーリーは、誰にとっても分かりやすく、あらゆる場所で語り合える共通の基盤となります。

#### (3) 変化に対応する柔軟な羅針盤

詳細すぎる計画は、社会の変化に伴ってすぐに実態と乖離してしまいます。指針を物語として共有することで、どのような状況下でも立ち返ることができる北極星のような役割を持たせ、柔軟に軌道を修正しながら

進むための助けとします。

## 5 重点プロジェクト～ストーリーを具現化する三つの柱～

スローガンである「私の楽しいから始まる、人と繋がる、まちの未来が動く」を具体化するために、今後数年間は以下の重点的に取り組むプロジェクトを掲げます。

### (1) 心から始まるプロジェクト

個人のワクワクや違和感といった心の動きを大切にし、活動への最初の一歩を後押しします。

### (2) 共に踏み出すプロジェクト

多様な組織や企業が手を取り合い、一人ではできないことを仲間と共に実現していく共働の場を創出します。

### (3) 響き合うプロジェクト

多様な活動が共鳴し、その価値を社会全体で認め合うことで、まちの未来を動かしていく持続的な循環を生み出します。

別添（２）令和７年度豊田市市民活動促進委員会 議事概要

- 1 第1回豊田市市民活動促進委員会（令和7年6月25日）
  - ・行政が事業を定めて実行する従来の「計画（Plan）」から、市民と行政が目指す方向性を共有する羅針盤としての「指針（Guideline）」への移行
  - ・「共働」という言葉が議論の核で単なる役割分担ではなく、行政と市民がそれぞれの強みと弱みを認め合い、対等なパートナーとして共通の目標に向かうという、より深い関係性を指すものとして確認
  - ・「指針」への転換に伴い、行政の役割及び委員会の位置付けについては議論が必要
- 2 第2回豊田市市民活動促進委員会（令和7年10月29日）
  - ・指針における目指す姿を包含するキーワードを委員自身の豊富なこれまでの知見から具現化
  - ・指針転換後の豊田市市民活動促進委員会の在り方について、調査審議主体からより実務主体の委員会へ移行する在り方について議論
- 3 第3回豊田市市民活動促進委員会（令和7年12月26日）
  - ・指針における目指す姿を決定
  - ・令和8年度以降の委員会の在り方について、具体的なイメージを共有
- 4 第4回豊田市市民活動促進委員会（令和8年1月28日）
  - ・指針における行動規範を決定
  - ・令和8年度以降の委員会の在り方について、具体的なイメージを共有

＜第2回委員会議論結果～指針における目指す姿で核となる言葉・キーワード～＞

